

学校外プール活用方針（概要版）

1 策定の目的

<水泳授業の意義>

- ・学習指導要領：水に親しむ楽しさや喜びを味わうことができる運動
- ・特殊な環境下での事故防止等 →実技を伴う授業を実施

<水泳授業の課題>

- ・日常の維持管理の負担：水質管理の負担
- ・天候・気候の影響：雨天・低温・猛暑によるこども・教職員への身体的影響
- ・施設の老朽化：維持管理費用等の増加、将来の更新費用

市立小中学校の水泳授業の実施継続のため、学校外プールの活用方針を作成

3 学校外プールの活用の検討

- (1) 学校外プールの立地状況
 - ・鉄道駅周辺など交通利便性の高い地域や幹線道路沿いに立地
 - ・授業時数の確保のため、学校からの移動時間は10分圏内である必要
- (2) 学校外プールを利用する場合のメリット・デメリット
 - ・メリット：学校プールの維持管理が不要、屋内なら天候に左右されない など
 - ・デメリット：移動に伴う授業時間への影響、移動時の安全確保 など
- (3) 利用に当たっての課題
 - ・受入可能コマ数：現行の授業時数と比べて受入可能コマ数が約9%不足
 - ・授業時間の確保：原則、小学校は3時限連続、中学校は2時限連続
 - ・利用期間：5月～10月まで実施（児童生徒の健康面を考慮）
 - ・水位調整：小学校では学年ごとに水底板設置による水位調整が必要
 - ・安全確保：移動時の安全対策や陸上監視要員の確保が必要
 - ・レーン数：1学級当たり、3レーン程度が必要
 - ・更衣室等：児童生徒が一斉に更衣できる広さが必要
- (4) 水泳授業の実施経費 (単位：千円)

	学級数	学校プール①	学校外プール②	増減②-①
小学校	19学級	7,283,000	7,862,947	579,947
	15学級		6,210,432	-1,072,568
	11学級		4,557,917	-2,725,083
中学校	19学級		8,778,357	1,495,357
	15学級		6,932,808	-350,192
	11学級		5,087,259	-2,195,741

2 学校プール・水泳授業の現状・課題

- (1) 施設の状況<R7.4時点>
学校プール134施設のうち、築40年を超えるプールが72施設
- (2) 水泳授業の実施状況
実施時期：6月～9月 授業時数：各学年10時数程度
- (3) 学校プールで水泳授業を実施する場合の課題
 - ・児童生徒の負担:低温や高温など気象条件や外部からの視線 など
 - ・教職員の負担:プールの維持管理（清掃、薬剤投入）や人員体制 など
 - ・設置者側の負担:1校当たり年平均約7,300千円の経費が必要

4 移行対象校（移行条件）

- (1) 築年数の条件 → 築40年以上のプールがある学校
- (2) 経費面での条件 → 学校外プールを利用した方が経費面で有利な学校
- (3) 移動時間の条件 → 片道10分以内（バス乗降含む）で移動可能な学校

5 移行の方法

- (1) 考え方・スケジュール
 - ・移行条件を満たす学校は学校外プールを利用
 - ・中学校は令和9年度以降、小学校では令和11年度以降、順次移行
- (2) 実施に当たっての学校とプールの調整事項
 - 教育委員会：施設へ利用可能日確認、バス会社への配車依頼 など
 - 学校：利用クラスの調整、日程調整表送付、施設と詳細調整 など
- (3) 既存プールの維持管理のあり方・民間事業者が撤退した場合の対応
 - ・既存プールは原則撤去し、運動場用地とする。
 - ・民間事業者が撤退した場合、他の学校外プールと利用を調整する。

6 今後の検討課題

- (1) 移行対象外の学校プールの対応について
 - ・経費面の条件が合わない場合 → 原則、プールの改築を検討
 - ・移動時間の条件が合わない場合 → 学校プールの共同利用・集約化
- (2) 実施する学校の負担軽減
 - ・施設管理の業務委託を検討
- (3) 移動して他校のプールを利用する学校の負担軽減
 - ・陸上監視要員の派遣を検討